



失敗は、素直に謝れば信頼を増す



これは、前任校で実際にあった出来事です。

ある月曜日、校区内に住んでいる地域の方から電話がかかってきました。前日の日曜日の昼前、その方の家のガラス窓に何かがぶつかったような音を聞いたそうです。しばらくしてから窓ガラスが割れていることに気付き、音を聞いた時間に、その中学校の体操服を着た何人かの生徒を見かけたことを思い出したそうです。

この電話を受けて、学校でどう対応するか相談し、給食の時間の放送で何か知っている人がいれば、情報提供をしてほしいという呼びかけをすることになりました。正直なところ、私は、この呼びかけで何か分かるというのは難しいのではないかと考えていました。

教頭先生が事実を伝え、「このことについて何か知っている人がいれば、教頭先生に知らせてほしい」という放送をしました。すると、給食が終わると同時に、3人の生徒から自分たちがしてしまったという申し出がありました。その早さに驚きました。石を投げて遊んでいたとき、誤って石が窓ガラスに当たって割れてしまい、思わず走り去ったそうです。

この生徒たちは自分たちのしたことを反省し、保護者と一緒に謝罪に行き、窓ガラスを弁償しました。その方は、すぐに自分の失敗を認め、謝ってくれたことを大変喜んでおられました。私も、この生徒たちの反省する態度は素晴らしいと思いました。もちろん、窓ガラスが割れたときに、その場で謝ることができれば一番よかったと思います。ただ、自分から申し出て、失敗や誤りを素直に認め、きちんと謝罪できたことには価値があります。黙っていれば、誰がしたのか分からないままになっていた可能性も少なくなかったのです。教頭先生は、その申し出の早さと自分たちが悪いことをしてしまったと素直に認める態度から、反省する気持ちがよく伝わってきたと話してくれました。

私自身、これまでに多くの失敗や過（あやま）ちをしてきました。人に迷惑をかけたこともたくさんあります。これらの経験を通して学んだことが3つあります。① 失敗や過ちをなくすことは不可能なこと。② 失敗や過ちを反省しなければ、同じことを繰り返してしまうこと。③ 心から反省し、素直に謝ることができれば、かえって信頼を増すことがあること。

- ①： 大きな失敗をしたとき、とても落ち込みます。こんなつらい気持ちは二度と味わいたくないと思いますが、時間が経つとこの気持ちを忘れ、同じような失敗をしてしまいます。ただ、何回か経験を積み重ねるうちに学習し、失敗の程度は小さくなっていくものです。また、失敗を乗り越えるごとにたくましくなってきます。精神的にタフになって、落ち込んだりへこんだりした状態から回復するまでの時間が短くなってきます。
- ②： 本当に反省したこと、心底つらくて「こたえた」こと、「性根にはいった」ことは、簡単には繰り返さなくなります。一方、たまたま運よく失敗をごまかせたり、あまり問題にならなかつたりしたことは、記憶の中にとどまらないので、また同じ事を繰り返してしまうのです。
- ③： 失敗したとき、言い訳をしたくなります。何とか失敗を取り返したい、なかったことにしたいと思い、嘘をついたり、ごまかしたりしたくなります。でも、それは自分の立場から考えているのです。相手の人にとっては、どんな理由があっても、迷惑をかけられたという事実は消えないのです。まず、そのことを謝らなければなりません。そしてその気持ちが相手に伝われば、それ以前にも増して、あなたの人間としての信頼が高まることもあるのです。素直に謝ることは、意外に難しいものであり、だからこそ価値があるのです。（友達とけんかして、お互いに自分の悪かったことを謝ったら、それまでよりも仲良くなったという経験はありませんか？）